

著者は語る

市場の闇と未来を照らし出す、圧巻のインテリジェンス小説

『スギハラ・ダラー』

手嶋龍一



てしまりゅういち／1949年北海道生まれ。NHKワシントン特派員として東西冷戦の終焉に立ち会い、「たそがれゆく日米同盟」「外交敗戦」を執筆。ワシントン支局長を経て、05年に独立。06年に上梓した初のインテリジェンス小説『ウルトラ・ダラー』がベストセラーに。

日々のニュースが小説を追いかけていると評された『ウルトラ・ダラー』から四年。十三カ国で取材し、独自の情報網を駆使して書かれたインテリジェンス小説第二弾は、前著でお馴染みの英国情報機関員ステイブン・ブラッドレーが金融恐慌の闇に斬り込む。物語の起点となるのは、命のビザの外交官・杉原千畝。「杉原千畝はヒューマニストのイメージが強く、そのことに全く異議はないのですが、それ以前に第一級のインテリジェンス・オフィ

サーでした。当時、独ソ不可侵条約で方向感覚を失った日本は、対ソ情報戦の切り札としてカウナスの地に彼を送り込んだ。インテリジェンスの世界は等価交換が原則。杉原は命のビザを与える代わりに、ポーランド亡命政府のネットワークから一級のインテリジェンスを得ておいたのです」救われた夥しい数のユダヤ人が「里見八犬伝」の如く世界中に散らばり、その後の世界のありようを変えたという。アメリカに渡って先物取引を産み、金融市

場を変革する本書の主人公には、実在のモデルがいる。「九九年、クリントン政権下でバグダッド攻撃が行われていた頃、後の国防長官ラムズフェルドに話を聞きに行ったんです。その時、紹介されたのがシカゴ・マーカーカントイル取引所の大立者レオ・メラメド。ポーランド系ユダヤ人の彼は、実はスギハラ・サバイバルなのだ」と語ってくれました」シカゴ・マーカーカントイルは八七年の世界恐慌ブラックマンデーでも唯一、取引を停止しなかった取引所だ。「約束の地であるアメリカは自由な取引によってアメリカたり得ている。だから自由なマーケットは時に命を越える存在なのだ」と彼は語りました。シカゴは『S&P500』等、最も先鋭

的な資本主義を生み出した地です。先鋭的な資本主義は時に狂暴になります。その巨大なエネルギーゆえに自由が世界に押し広げられていったのです」荒れ狂う金融恐慌と背後に見え隠れする国際テロ組織——ユダヤと日本が手を結んだ相場師達の友情物語は、9・11以降の闇を鮮やかに浮き彫りにする。「膨大な情報の中からダイヤモンドの原石を選び抜く上で重要なことは、目の前で起きていることすら疑うこと。僕は湾岸戦争も9・11も現場にいましたが、目の前だからこそ事態の本質が見えにくいこともある。クールに客体化し、異なる分野でおきている二つの事柄を読み込むと、新しい意味を持ち始めるんです」



新潮社 1600円＋税

ブラックマンデーや9.11など、マーケットが荒れる度に巨額の利益を得る者達がいる——英国情報機関員ステイブン・ブラッドレーが国際金融市場の闇に挑む。杉原千畝で命を救われたユダヤ人アンドレイと名うての相場師・松山雷児。二人の数奇な運命が大荒れの金融市場で交差する。世界を支配するのは誰だ？

「約束の地であるアメリカは自由な取引によってアメリカたり得ている。だから自由なマーケットは時に命を越える存在なのだ」と彼は語りました。シカゴは『S&P500』等、最も先鋭

的な資本主義を生み出した地です。先鋭的な資本主義は時に狂暴になります。その巨大なエネルギーゆえに自由が世界に押し広げられていったのです」荒れ狂う金融恐慌と背後に見え隠れする国際テロ組織——ユダヤと日本が手を結んだ相場師達の友情物語は、9・11以降の闇を鮮やかに浮き彫りにする。「膨大な情報の中からダイヤモンドの原石を選び抜く上で重要なことは、目の前で起きていることすら疑うこと。僕は湾岸戦争も9・11も現場にいましたが、目の前だからこそ事態の本質が見えにくいこともある。クールに客体化し、異なる分野でおきている二つの事柄を読み込むと、新しい意味を持ち始めるんです」